

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者

西、花本、仲島、中塚(L)

2. 山行スタイル

沢登り

3. 目的

今シーズンの初沢を楽しむ

4. 山域／ルート

比良北部 赤坂山／耳川うつろ谷

5. 交通手段

自家用車

6. 行動記録

＜入山日 2024 年 4 月 28 日＞

5 時神戸発→8:20 うつろ谷入渓→12:30 二俣付近(昼食)→13:30 明王の禿→14:10 赤坂山→15:10 うつろ谷出合(駐車地)→ミカタきららの湯 17 時→19 時神戸着

7. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか？

遡行時間が計画よりも 1 時間程度多くかかった。序盤の 9m 滝の左岸をかなり高くまで巻いたため、沢に下りるのに連続 2 回の懸垂下降となり、ここで時間を要した。

他にも 4 カ所ほどロープを出したが、それらはスムーズに登行できたと思う。

b) 事故に繋がりそうな要因(ヒヤリハット)が発生したか？

発生した場合、具体的に記す

特には無し

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

上記の高巻きについて、滝の落ち口に直接トラバースするルートは草付きで支点は取れず、ぬめっていてスリップのリスクがあったため、大高巻きが最善との結論であったが、一方で結果的には滝の直登の方がむしろ安全で、短時間に通過できたのではないかという意見もあった。

8. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

・沢 1 級ということだが、シャワーを浴びて直登する滝もあり、水量や高巻きルートのぬめりの状態で難度は変わる。快適に遡行できる初級沢のつもりだったが、なかなか手ごたえのある沢だった。最新の「関西 100 沢(吉岡本)」ではこの沢は削除されているが面白い沢だと思う。

・源流部は平坦な細い流れが最後まで続き、素晴らしい景観の明王の禿に飛び出す。イワカガミの群生や若葉の林など、とても良い雰囲気だった。

・カーナビにうつろ谷出合を設定したが、なぜか敦賀周りを案内された。途中気づいたので予定したルートでアプローチできたが、舗装路から分かれる最後の 1km あまりの林道はかなり荒れている。車高の高い車の方が安心である。

9. 感想

＜西＞

南紀の沢の代替沢で行ったうつろ谷。シャワークライムが楽しい沢らしいが、まだちょっと寒いかな？と、寒さ対策万全にしていた。今年初めての沢ということで、前日は緊張や不安の方が強かったかも。水は、それ程冷たくなく、なんといってもお日さまパワーで気持ちいい沢登りとなった。岩は、結構ぬめっていて滑りやすかったけど登れる小滝が連続して楽しかった。多分第一連漠帯、右側を巻い

たが直登にチャレンジすべきだった。トラバースできず、かなり上に登らざるを得なかった。ここがちょっと危険だったかも。30mロープしかなかったので、2回懸垂をして沢に降りた。良かった。その後は、順調にシャワークライムを楽しみながら稜線にでた。イワカガミの群生地や新緑を楽しんだ。赤坂山からは、琵琶湖や山々が広がり初夏のハイキングを楽しんだ。初級の沢らしくないこの夏初の沢となったが、いろいろ経験できて充実した1日となった。一緒にくださった皆さんありがとー



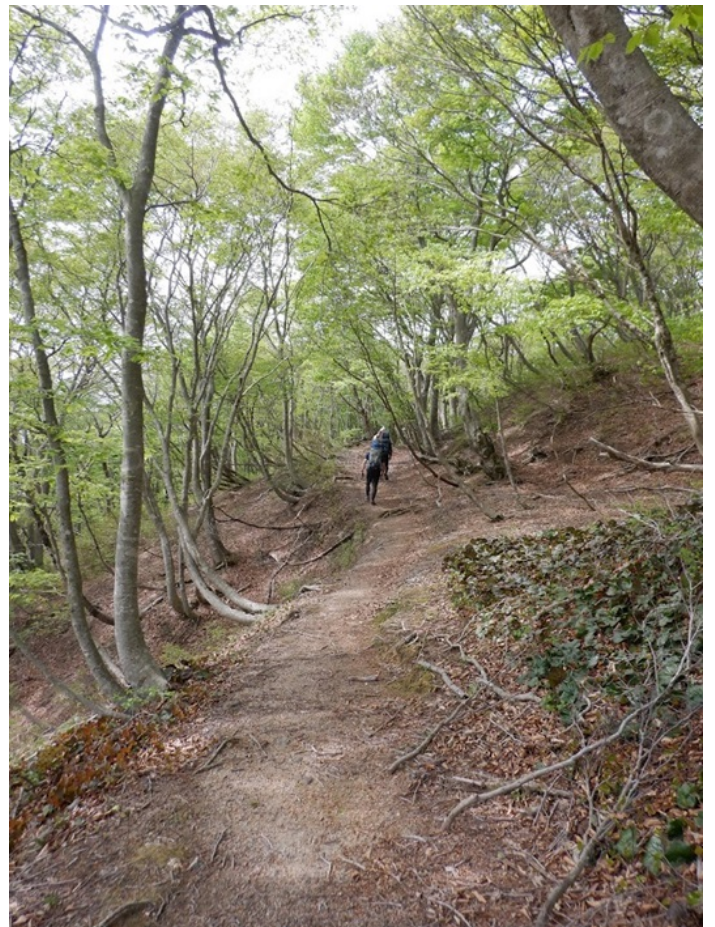
<仲島>

今シーズンの初沢、楽しく行けました。新緑の中、花も咲いていて、明るく綺麗な沢でした。技術的には、巻きを間違えたことを別にしても、一級にしては厳しいと思います。水量が多かったのかもしれませんが、登れる滝が連続するので、楽しく遡行できました。つめも、下山も簡単で、神戸から

近いのでお買い得です。

<花本>

今シーズン初めての沢ということで最初期待と不安半々でスタート。水もそう冷たくなくていい感じだったが、しばらくして滝を巻くことになり、ここでいきなり緊張感マックス、草付きの斜面を登ることになった。初めは岩も出ていて摩擦もそこそこあったがそのうち草と土になり、木の枝を頼りに頑張るも最後の急登でロープを出して頂いた。登りきってほっとしたのもつかの間、滝からかなり高い位置になっていたのので、そこから懸垂下降を2回繰り返してやっと沢に戻ることができた。そこからは滝が連続する感じで、数回ロープを出して頂いたが、楽しく登ることができた。稜線が近くなるとすごく穏やかな流れが続いて明るくなり、景色の変化がよかった。最後赤坂山から琵琶湖を望み、一般道で快適に下山した。ご一緒させて頂き皆さまありがとうございました。おかげさまで無事初沢を楽しむことができました。



<中塚>

南紀の天気あまりよくなく、北のほうがいいけどなあと悩んでいたら、西さんから「うつろ谷！！」と言ってきた。「えっ、それ、水が冷たいやろ・・・」と返事したが、記録をいくつか見てみると、釜には浸からなくても良さそう、シャワーが嫌なら巻けそうということで決定。

天気は予報通り、快晴。とても暖かで快適でした。途中、暑くなってカッパも脱ぎました。序盤の大高巻きはまあまあ大変でした。2回連続の懸垂も計ったようにザイルの長さいっぱい。沢に下りた時には下降器も外しにくいくらいテンションがかかってました。久しぶりだったけど、良い練習にはなりました。その後もそこそこの高さの滝が連続し、個人的には結構シャワーも浴びて、すっかりシャワークライミングになってしまいました。でも水が全然冷たくなかったのは助かった。

源流部は最後まで平坦な水路が続き、周りはイワカガミの群生や薄緑の木々の若葉が美しく、とても良い雰囲気。藪漕ぎもなく縦走路に飛び出すと、そこは“明王の禿”。荒々しい岩と眼下に望める琵琶湖の眺望が素晴らしかった。

赤坂山からはぐっと重くなったザックを背負い、古代からの官道である栗柄古道を快適に下山。

リードしてくれた西さん、仲島さん、どうもありがとう。花本さんも楽しかったね。また行こう！！

でも何か物足りないと思ったら、珍しく今回は例の「ヤッホ～！！」が聞こえてこなかったなあ・・・

報告者 中塚文教 2024 年 5 月 1 日